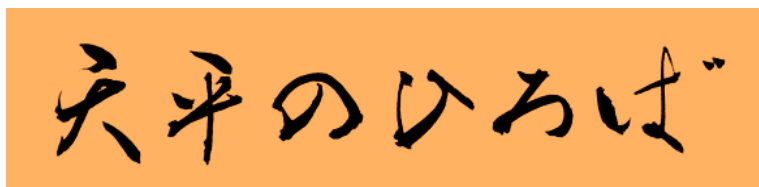




平城宮跡でボランティア活動をしている私たちの会報紙です



2022 年 1 月発行

81 号

NPO 法人平城宮跡サポートネットワーク (NPO 平城宮跡)

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail : npoheijyou@yahoo.co.jp

http://www.heijyonet.nara.jp

創立 20 周年記念式典を開催

NPO 平城宮跡サポートネットワークは、コロナ禍 11 月 6 日平城宮跡資料館小講堂に 38 名が集い「創立 20 周年記念式典」を開催しました。記念講演会 (2 面) に続き、仁木美津子事務局長の進行で鈴木浩理事長が、環境保全事業などを通じた当法人の 20 年に及ぶ活動を説明、今後も平城宮跡の快適な環境を維持するため地元住民はもとより奈良の財産平城宮跡を県民一丸で守る活動を継承・発展したいと挨拶。来賓の皆さまから、「NPO 平城宮跡サポートネットワークの清掃活動や環境パトロール、講演会・見学会の開催、子供たちの学びや交流の場の提供、何よりも『天平の語り人』として NPO 平城宮跡の皆さまは溶け込んでいて、その愛着や思いを皆さまとともに守っていききたい」と暖かい祝辞を頂きました。続いて奈良文化財研究所長から NPO 平城宮跡の 20 年に亘る様々な業績に感謝状が贈呈 (右写真) された後、大山達夫広報部長から当法人の活動紹介、宮繁壽夫 (元理事長) の記念式典を纏めるスピーチがあり、式典は滞りなく終了しました。



鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長の挨拶と式典会場の様子 (2)

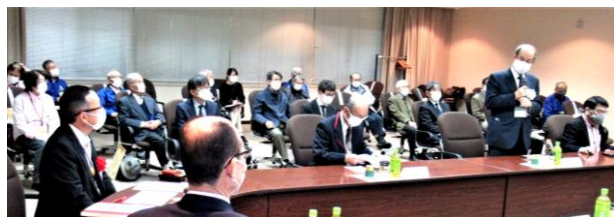


本中眞奈良文化財研究所長 & 鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長

〔感謝状〕『20 年の長きにわたり国の特別史跡であり、世界遺産に登録されている平城宮跡において環境保全、文化事業、広報活動を通して、文化財のすばらしさと保護の大切さを広く伝え、奈良文化財研究所の運営に多大な貢献をされました。よって、そのご厚意に対し深く感謝の意を表します。』 (編集部)



左下: 寺崎保広奈良大学名誉教授、仲川げん奈良市長、本中眞奈良文化財研究所長、中村孝国営飛鳥歴史公園事務所長、中岡正一平城宮跡事業推進室長、左上: 栗坂史昭再生プロジェクトリーダー、鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長、諱浩行平城宮跡管理センター長



鈴木浩 NPO 平城宮跡理事長の挨拶と式典会場の様子 (1)

記念誌の発行

当法人の創立 20 周年を記念し「天平のひろば」の創刊号から 80 号までの全号を一冊に集約、活動の足跡を活用して頂ける合本版です。

今後も皆さまのご理解とご支援でボランティア活動に精進して参ります。 (編集部)



創立 20 周年記念誌の表紙デザイン & 20 年の活動と役割

寺崎保広

(奈良大学名誉教授)

11月6日第42回創立20周年記念講演会はコロナ禍98名を前に開催。

講演要旨は以下の通り。

光仁天皇の長男は山部親王（のち桓武天皇）だったが、母親の高野新笠は渡来系の子孫のため出自が悪いとして皇位継承順位としては下位に位置付けられていた。一方、天武系勢力は聖武天皇の孫にあたる他戸親王を皇太子としたが、母親の井上皇后が天皇を呪詛したとして無実の罪で他戸親王ともに死に追いやられた。こうして天武系の血筋をもつ勢力が次々と消されていった。このような暗闘を経て生まれたのが第50代桓武天皇だった。

785年、造長岡京司の藤原種継射殺（いころす）事件が発生。遷都に敏腕をふるっていた種継に反感を持っていた早良親王（桓武の弟）のグループが犯人とされ早良親王を幽閉。その後、絶食し衰弱死。即座に安殿（あて）親王（のち平城天皇）を立太子に。さらに事件の関係者として大伴家持など数十人が捕らえられた。この事件は、桓武天皇側の安殿親王を次期天皇にするための策略だったと言われている。しかし皇后が病気になるなど不吉な事件が続き、「怨霊」を鎮めるための御霊信仰が生まれた。また南都仏教の力を奪う政策を取り、804年に最澄と空海らに唐の最新の仏教を持ち帰らせ、新しい仏教を取り入れた。天台宗と真言宗の始まりである。桓武朝の二大事業であった蝦夷征討と平安京の造都は天下の民を苦しめているものだと指摘した藤原緒嗣の意見を取り入れ一時的に停止した。

(編集部)

新規会員 会員募集 (((12月1日現在(50音順))

伊藤幹子さん、小野田守隆さん、福本雄式さん、横田裕之さんが入会しました。

＜ボランティア活動 入会お申し込み＞

❖個人が支援/活動。年会費 3000円

❖法人が支援/活動。年会費 10000円



平城宮跡歴史文化講座

1月23日：市 大樹（大阪大学大学院文学研究科教授） —平城天皇—

遺跡見学会

10月30日に15名が奈文研林正憲研究室長と飛鳥の古墳巡り遺跡見学会を実施。奈文研の専門家とゆっくり歩く遺跡見学会はいつも好評でコロナ禍でなければ、多くの参加が期待されたところです。

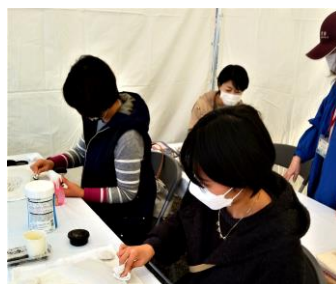
＜行程＞近鉄飛鳥駅→欽明天皇陵・吉備媛王墓→岩屋山古墳→牽牛子塚古墳→マルコ山古墳→（飛鳥駅経由）→見瀬丸山古墳→岡寺駅



遺跡見学会の皆さま(撮影:森重忠正)

秋の天平祭で「古代瓦の拓本づくり」

秋の天平祭で「古代瓦の拓本づくり」を11月20・21日、朱雀門ひろばで行い、22名が体験しました。



どんぐり拾い

10月16日に福寿園の協力でどんぐり27kgを拾い、奈良鹿愛護会に贈呈しました。

(文化・ガイド部会)

平城宮跡みまもり隊

12月18日帝塚山大学法学部と奈良県警本部の防犯ボランティア講座20名とコラボし、平城宮跡の防犯・環境パトロールを行いました。(環境保全部会)



←平城宮跡資料館前でメンバーと学生たちとの集合写真

好評 平城京 歴史講座

中村力也さん(宮内庁正倉院事務所保存整備室長)が10月9日66名を前に「奈良時代の色料」と題し、講演。



「色料」とは色を付ける材料のことで水に溶ける染料と溶けない粒状の顔料とがある。古代から長く使われてきたのは赤色顔料「ベンガラ」で古墳時代から、白、黄、緑などが加わり、飛鳥～奈良時代に急激に色の種類が増えていることを科学的に解き明かす。

仏教伝来、渡来人の流入が関係していると思われる、正倉院展で展示される「漆金箔絵盤」の蓮の花ビラには美しい花鳥の絵が描かれている。

昆虫やほかの動物は、人とは違う色を見ていることや色とは何か、というテーマについて「色は光である」ことを発見したのはニュートンであり、色の識別は感覚が重要と述べたのはゲーテである。人間が色を感じるの「可視光線」の範囲であることなど化学の分野も含めての講演だった。(編集部)

木原明彦さん(奈文研解説ボランティア)が11月13日65名を前に「もっと知りたい!校倉の不思議」と題し講演。律令国家の確立に伴い奈良時代から平安時代にかけて穀物や財物を保管する「正倉」とよばれる倉庫が各地に設けられ、唐招提寺の宝蔵と経蔵は国宝に指定されている。特に経蔵は新田部親王の屋敷だったところに造られこの校倉が、一番古い。



幅9m幅(木材の長さの限度が約10m)奥行6mの規模。礎石、束柱、高床式、寄棟の本瓦葺きで校木は20段が一般的。「東大寺本坊経庫」は標準的な校倉とされている。また、平安時代以降にも造られた校倉造りは、石上神社や談山神社に今も残っている。

正倉院の内部は北倉、中倉、南倉で、「三倉」とも呼ばれ聖武天皇関連は北倉に、大仏開眼供養や法会用の東大寺の貴重な仏具などは中倉、南倉に収納されている。

校倉のデザインは近世でも取り入れられており、東京の国立劇場や奈良国立博物館、最近ではNHK奈良放送局や、春日ホテルも校倉風。(編集部)

校倉のデザインは近世でも取り入れられており、東京の国立劇場や奈良国立博物館、最近ではNHK奈良放送局や、春日ホテルも校倉風。(編集部)

校倉のデザインは近世でも取り入れられており、東京の国立劇場や奈良国立博物館、最近ではNHK奈良放送局や、春日ホテルも校倉風。(編集部)

山崎有生さん(奈文研研究員)が12月11日88名を前に「平城宮東院地区の発掘調査」～近年発見された宮殿正殿とみられる大型建物について～と題し、講演。建物の構造である身舎(もや)と廂(ひさし)や建物の桁と梁について解説。回廊や僧坊、朝堂のように桁行方向には、延長はいくらでもできるが、梁行方向への延長は限界がある。これも木材を継ぎ足すことで可能だが天井が低くなる。



平城宮の東張り出し部は17年前から継続的に実施しているが今回の発掘では、更に延ばした孫廂(まごひさし)も見つかっており、巨大な建造物が立っていたことが確認された。これは内裏正殿の可能性が強まった。今回調査した大型掘立柱建物の性格については、大規模な東西棟建物で床張りの総柱建物。瓦の出土が少なく、檜皮葺と思われる。東院地区の中軸付近に位置することから、天皇や皇太子などが住まう内裏正殿など格式の高い建物で、続日本紀にみる称徳天皇の「東院玉殿」、光仁天皇の「楊梅宮」などが考えられる。(編集部)

平城宮の東張り出し部は17年前から継続的に実施しているが今回の発掘では、更に延ばした孫廂(まごひさし)も見つかっており、巨大な建造物が立っていたことが確認された。これは内裏正殿の可能性が強まった。今回調査した大型掘立柱建物の性格については、大規模な東西棟建物で床張りの総柱建物。瓦の出土が少なく、檜皮葺と思われる。東院地区の中軸付近に位置することから、天皇や皇太子などが住まう内裏正殿など格式の高い建物で、続日本紀にみる称徳天皇の「東院玉殿」、光仁天皇の「楊梅宮」などが考えられる。(編集部)

平城宮の東張り出し部は17年前から継続的に実施しているが今回の発掘では、更に延ばした孫廂(まごひさし)も見つかっており、巨大な建造物が立っていたことが確認された。これは内裏正殿の可能性が強まった。今回調査した大型掘立柱建物の性格については、大規模な東西棟建物で床張りの総柱建物。瓦の出土が少なく、檜皮葺と思われる。東院地区の中軸付近に位置することから、天皇や皇太子などが住まう内裏正殿など格式の高い建物で、続日本紀にみる称徳天皇の「東院玉殿」、光仁天皇の「楊梅宮」などが考えられる。(編集部)

次回の平城京 歴史講座(いざない館)

1月15日:中岡正一(奈良県平城宮跡事業推進室長)

「平城宮跡歴史公園における奈良県の取り組みー朱雀門ひろば、平城宮跡東側及び南側の整備について」

2月12日:内藤栄(奈良国立博物館前学芸部長)

「奈良時代の密教美術」

快適な平城宮跡

11月16日資料館中庭で緑の保全部会のメンバーが樹木の剪定・草刈りを実施。刈り込まれた中庭の景観はスッキリとして気持ちが良く復原された庭園には、様々な屋外の公開展示があります。



- ←屋外公開展示施設の草刈り作業
- * 是より平城宮という標識、
- * 羅城門の礎石、
- * 苑池の景石

(緑の保全部会)

やま さき ゆう き
山 崎 有 生

都城発掘調査部平城地区 遺構研究室研究員



1994 年埼玉県熊谷市生まれ。
2017 年東北大学工学部卒、同大
学院修士課程修了、2019 年 4 月
奈文研に就職し、現在に至っ
ています。

山崎さんの専門は日本建築史学で、特に神社建築に興味を抱いています。なかでも神仏習合に興味があり、大学院時代は石清水八幡宮の本殿について研究していました。今でも神社の研究は続けているそうです。

奈文研では、平城宮・京紹介 CG 動画を監修したり、平城第 633 次調査で平城宮東院地区を発掘したりしています。最近、奈文研の YouTube チャンネルである「なぶんけんチャンネル」にて発掘調査の様子や遺構研究室の活動について公表していました。そんな山崎さんの所属する遺構研究室は、古代の都城や寺院で発見された遺構の研究を行う研究室です。建物の柱や基礎の痕跡、溝、土坑といった奈良時代の人々の活動の痕跡を通じて、遺跡の分析・検討を行っています。

また、そのような遺跡に関する研究成果から、平城宮をはじめとする古代の建物を復元する研究も行っています。

最近、素屋根が移動し、その姿が露わになった大極殿院南門やこれから工事が始まる東楼や西楼の復元も遺構研究室が行いました。「地道で緻密な研究を重ねてようやく復元建物を建てることができる」と山崎さんは言います。「社会的な影響を考えると復元建物を建てることには慎重になった方がいい」とも語ってくれました。平城宮のすべての建物を復元したらどうかと提案したら、苦笑いされていました。

さて、12 月 11 日の平城京歴史講座でも山崎さんに講演して頂きました。それによると、最近行った平城第 633 次調査では、天皇や皇太子の宮殿の中心建物とみられる大型の掘立柱建物 (SB20060) の全体規模を確認したとのこと (3 面参照)。まだまだ平城宮跡の発掘から目が離せないと感じた講演でした。平城地区の研究員としては一番若い山崎さん。そんな彼にこれまでにない新しい良い気風を感じました。

(編集部)

平城宮跡を“楽しむ”人たち

よみがえった奈良時代のゲーム「かりうち」

11 月 3 日奈文研、管理センター、当法人が朱雀門ひろばの四神テーブルで 8 組に分かれて、よみがえった奈良時代のゲーム「かりうち」を開催しました。

はじめての対抗戦でしたが接戦あり、どんでん返しありで大変盛り上がりしました。



官人服の人は賭場役人？



(文化・ガイド部会)

セミの異常

低木の南天の木にセミの抜け殻ではなく全身が「白骨化」を見てビックリ。よう虫から成虫になったばかりの老化ゼミかも知れず。そこで思わずパチリ！
アブラゼミの雄 5.8 cm。



(写真提供：岡田庄三)

編集後記

新年あけまして おめでとうございます。

当法人は 2021 年に“やっとな二十歳の成人式”を迎えたところです。

平城宮跡の快適な空間を求めて、奈良に住んで良かったと、皆さま白寿まで頑張りましょう！(萱鼠)